

川づくりワークショップ

【第6号】
平成24年11月19日発行
古賀市役所建設産業部建設課

第6回ワークショップ開催！

～皆さんと考える川づくり
整備イメージ模型ができあがりました～

平成24年11月10日（土）、13時30分から市民の皆さんに集まっていただき、第6回ワークショップを開催しました。

今回のワークショップでは、整備イメージ模型を囲んで、詳細の詰めを行いました。この整備イメージ模型は、前回皆さんからいただいた意見を基に九州大学が作成したものです。模型を会議室に持ち込むと、皆さんの視線がこの模型1点に集中しました。

さて、模型は皆さんの意見が反映されて出来上がっていましたでしょうか？では、第6回ワークショップを振り返ってみましょう。

第6回ワークショップの内容

整備イメージ模型を囲んでの修正作業

整備イメージを検討する前提条件の確認

大根川の整備イメージを考えるにあたり、これまでのワークショップで堰の高さや河床高を変えることで流速や流量が変わることを学んだり、大根川に行って水質や魚、植物の調査を行ったり、また、多自然川として整備されている福津市の上西郷川の視察を行ったりしてきました。

その中で、今回整備する大根川に潜むいくつかの課題を発見することが出来ました。数点例を挙げてみましょう。

- ・ 護岸が急であり水際へのアクセスが悪いため川に入れない。そのため、子どもが安全に遊べるスペースがない。
- ・ 流れが単調であり瀬・淵があまりない。
- ・ 繁茂する草の維持管理が大変。

・ 管が露出しており景観上見た目が悪い。
しかし、このような課題がある中でも水質が比較的良好である、流量が確保され枯渇することがない、多くの生物や植物が生息しているといった大根川の持つ潜在能力もわかってきました。

さらに、将来を担う子どもたちの川に対する意見も聴取し、その意見を反映させて川づくりをしようと皆さんで考えてきました。

このような取組を経て、具体的な整備イメージを検討するための前提条件を次のように整理しました。

- ・ 今回は大根川の旧河道を整備範囲とする。
- ・ 旧河道への流入管及び取水堰の高さは変更しない。
- ・ 水の流れに変化をつける。
- ・ 多様な生物が生息できるようにする。
- ・ 水際に近づけるようにスロープ等を配置する。
- ・ 散策路の整備及び木陰ができるよう樹木を植える。
- ・ 棧橋、ベンチを設けて利用者の利便性を高める。

模型の修正作業

検討する前提条件を確認したところで、九州大学が作成した模型の説明を受けました。その後、その模型の修正作業に入りました。



九大からの模型の説明

皆さんにいろいろな意見や整備案を出し合ってもらいました。百人いれば百個の案があります。それらが全て同じ案ということはありません。皆さんの活発な議論、また模型を作り変える作業を通じて、採用された案もあれば、別の案に代わったものもありました。

しかし、皆さんの意見の根幹には、大根川をきれいに

したい、誰もが利用できる憩いの場にしたい、子ども達が安心して遊べる川にしたいといった思いは共通していたのではないのでしょうか。



皆さんの意見で植樹されていく模型

本日のまとめ

皆さんの意見を整理し模型を修正しましたが、最後の仕上げは九州大学が持ち帰って行います。

そこで、本日の修正内容及び修正意見について以下に示す点を確認した上で、九州大学に模型の仕上げをお願いしました。

- ・水際に子どもが遊べたりできる平場を設ける。
- ・バードウォッチングができるようにする。
- ・シンボルツリーかモニュメントを設ける。
- ・帯工を境に上流部は人が寄り付ける箇所とし、下流部は魚、鳥の生息箇所とする。
- ・現在も自然豊かな環境であることから、手を加える箇所と、そのままの環境を残す箇所とを設ける。
- ・沈下橋や河川内の植樹について、許可がいただけるかどうかは河川管理者の県で検討してもらうこと。
- ・洪水による増水時のことも念頭において検討すること。

次回のワークショップのご案内

次回は、**12月15日(土) 13:30~15:30**、**市役所大会議室**で開催します。

次回のテーマ

- ・整備イメージの最終確認、合意形成

4月から行ってきたこのワークショップも次回で最終回を迎えます。

これまでワークショップで議論してきたことの集大成として、整備模型を完成させたいと思います。

お誘い併せの上、皆様のご参加をお待ちしております。